

「東北大学法科大学院に進学する法学未修者の皆さんへ」

東北大学法科大学院

第1年次科目担当教員一同

東北大学法科大学院への合格おめでとうございます。皆さん、新たな目標に向け、意欲に満ちていることと思います。

さて、法学未修者の皆さんの法学の勉強歴は様々だと思いますが、特に、今まで法学を専門的に勉強したことのない、全くの未修者の皆さんにとって、4月からの講義の内容を短時間のうちに理解することは、相当な負担になるものと思います。具体的には、第1年次で開講される、公法（憲法および行政法）、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の科目について、これまでの大学学部教育において、2～3年をかけて講義されていた内容を、1年間で、それも、わが国の司法制度や法解釈学に関する知識がほとんどない状態から勉強を始めて、修得しなければならないのです。

そこで、講義が開始される4月8日までの間に、ぜひ読んでおいてもらいたい本を〔別紙〕に挙げておきました。これらの本は、いくつかの例外を除いて、それだけで専門的な知識を習得する（法学既修者レベルに到達する）ことができるほどに高度な内容のものではありませんが、4月からの講義に必要な前提知識を身につけ、よりスムーズに法科大学院での学習を始めるためには格好のものだと思います。これらの本を読み、講義に向けて、ウォーミングアップを行っておいてください。

それでは4月にお会いするのを楽しみにしています。

[ 別紙 ]

( 憲法 )

公法の憲法の部分を担当する辻村みよ子教授の『憲法〔第2版〕』（日本評論社、2004年、3800円）を、4月からの授業の準備として少しでも読み進めて下さい。また、現在最もスタンダードな教科書であるといえる芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第3版〕』（岩波書店、2002年、3000円）は、憲法の学習を進めていく上で常に参照すべき必携文献です。

このほか、いきなり専門書に取り組むことが難しく感じる人は、初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門（第2版）』（有斐閣、2000年、1600円）や、棟居快行他『基本的人権の事件簿（第2版）』（有斐閣、2002年、1800円）等が、入門書として大変役に立ちます。

( 行政法 )

・藤田宙靖『行政法入門（第3版）』（有斐閣、2003年、1900円）...行政法の基本をやさしい語り口で解き明かしてくれます。行政法の世界への第1歩として推薦します。

・芝池義一編『判例行政法入門（第3版）』（有斐閣、2001年、2000円）...基本判例に即して行政法の基礎知識を整理したものです。判例にも触れながら行政法の門をくぐりたい方にお薦めします。

・山下淳 = 小幡純子 = 橋本博之『行政法（第2版補訂）』（有斐閣、2003年、1800円）...「公法」の講義で用いるテキストです。コンパクトなものですから、講義開始までに一度通読されることを期待します。

( 民法 )

入学までに、星野英一『民法のすすめ』（岩波新書、1998年、660円）を一読することをおすすめします。余裕のある方は、次のなかからいくつかのものを手にとって眺めておくとよいでしょう。

・山本和彦『よくわかる民事裁判』（有斐閣、1999年、1600円）

・道垣内弘人『ゼミナール民法入門（第2版）』（日本経済新聞社、2003年、3200円）

・大村敦志『生活民法入門』（東京大学出版会、2003年、3200円）

・河上正二『歴史の中の民法』（日本評論社、2001年、3400円）

( 商法 )

商法を履修するには、民法、特に民法総則および債権法と呼ばれる部分の基礎的な理解が前提になりますので（カリキュラム上も第1年次の商法は後期に開講されます）、とり

あえずは民法をしっかり学んで下さい。

夏季休業の間に、後期に備えて、商法の輪郭をざっと捉えておきたいという人のために、近藤光男編『現代商法入門 [第6版]』（有斐閣、2003年、1800円）を挙げておきます。

#### （刑事法一般）

今まで刑法を専門的に勉強したことのない方は、この本を読んで下さい。

- ・井田良『基礎から学ぶ刑事法（第2版）』（有斐閣、2002年、1800円）

#### （刑法）

すでに刑法を大学の講義などを通じて専門的に勉強したことのある方は、下記の本から1冊を選んで読んで下さい。前者は検察実務家、後者は研究者の書いた本です。

- ・増井清彦『はじめての刑法』（立花書房、2003年、2190円）
- ・町野朔『プレップ刑法（第2版）』（弘文堂、1994年、1360円）

#### （司法制度）

わが国の司法制度（裁判手続の概要とそれに関与する人々）に関する理解は、法律学を学ぶ上で、欠かすことはできません。下記の本を、入学までに、必ず読んでおいて下さい。

- ・市川正人＝酒巻匡＝山本和彦『現代の裁判 [第2版補訂]』（有斐閣、2003年、1700円）

#### （民事訴訟法）

司法制度の項に掲げられた『現代の裁判 [第2版補訂]』をしっかり読んでおいて下さい。

#### （刑事訴訟法）

刑事訴訟法は第1年次後期に開講されるため、特に、現時点では、読むべき本を指定しませんが、入学までに、いくつかの刑事裁判を実際に傍聴することを強く勧めます（裁判傍聴のしかたについては、『現代の裁判 [第2版補訂]』72～73頁を参照のこと）。